

チューリップの花芽分化状況について(8月5日現在)

平成 28 年 8 月 9 日
 経営普及課
 (農業革新支援担当)

新潟県農業総合研究所園芸研究センターのチューリップ花芽定期観測結果から、今年の花芽分化及びノーズの伸長状況等について主要 3 品種のデータを紹介します。

1 供試球根

園芸研究センター本場(砂壤土)産球根

品種(系統)	掘取日	調査サイズ	初期乾燥	貯蔵
プレルジューム(T)	6月9日	11cm	自然乾燥	自然貯蔵
イルデフランス(SL)	6月9日	11cm	自然乾燥	自然貯蔵
メリーウィドー(T)	6月9日	11cm	自然乾燥	自然貯蔵

2 花芽分化の状況(添付ファイル「T20160805data」参照)

- (1) プレルジュームとイルデフランスは、7月26日の調査段階で平年に比べ20日以上早く花芽分化が完了(G3段階到達)している。メリーウィドーも平年に比べてかなり早く花芽分化が進行していたが、8月第1半旬の高温を受け、G1(雌ざい分化始期)~G3(柱頭分化完成期)段階と前回調査以降停滞している。
- (2) ノーズの伸長についても、いずれの品種とも平年に比べてかなり早く進んでいたが、8月第1半旬の高温を受けて前回調査以降停滞している。
- (3) りん片含水率(7月10日定期調査)は、品種によりばらつきがあるが、3品種とも平年に比べてやや高い。

3 平均気温による花芽分化予測について(参考)

新潟地方気象台(新潟市中央区)における本年6月の平均気温は21.4℃で、平年値(20.7℃)よりやや高かった。また、7月の平均気温は24.6℃で平年値(24.5℃)並であった。

6月及び7月の平均気温を花芽分化予測図(図1)に当てはめると、今年は「緩慢型」と推測される。

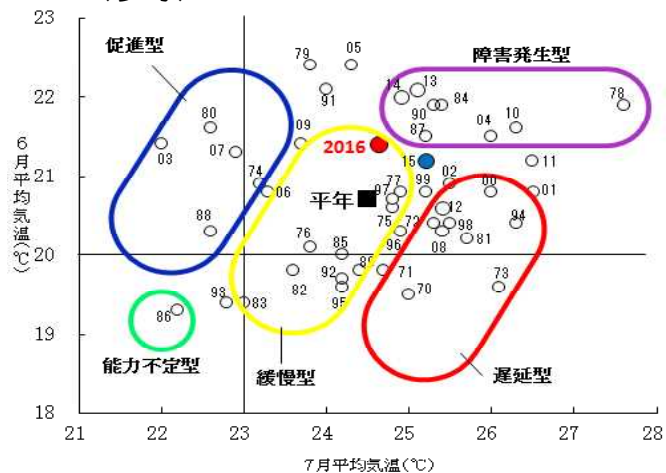


図1 気温と花芽分化・発達との関係(予測図、1997改定)

4 今後の技術的対応など

- (1) 冷蔵計画の策定に当たっては必ず花芽を確認し、無理のない計画とする。
- (2) 年内出荷を予定するものについては、花芽調査に基づいた計画的な中温処理を行うことが望ましい。その際は、腐敗球の除去を徹底し、十分な換気に留意する。

※ 次回の生育情報は、8月10日調査のチューリップ花芽分化(第8報)をお知らせする予定です。